

# 水稻生産情報 6月号

## 現在までの生育状況

田植え後は曇天の日が多かったため、現在の生育（6月10日調査）は、葉齢や茎数が平年よりやや少ない状況です。

今後も水管理には十分目を配り、分けつを促進させましょう。

品種	草丈 (cm)			茎数 (本/株)			葉齢 (葉)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
つがるロマン	28.7	28.5	27.8	4.3	5.0	5.0	4.3	5.4	5.4
まっしぐら	36.4	29.9	30.9	4.6	5.2	5.5	4.3	5.1	5.1

- ・低温時は深水・温かい日は浅水にして水温・地温の上昇を図り、分けつを促進させましょう。
- ・昼間止め水・夜間かんがいの基本を守りましょう。
- ・畦畔・水尻を今一度確認し、しっかりと水管理をしましょう。

## 分けつ期から幼穂形成期までの管理のポイント

### 水管理

- 温暖な日は、2~3cm程度の浅水で水温の上昇を図りましょう。
- 低温の日は、冠水しない程度の4~5cmの深水で保温に努めましょう。
- 水は定期的に入れ換えましょう。土壌中の酸素が欠乏すると発根が進まず弱い稲体になります。

### 中干し

- 中干しは、茎数が20本程度になったら始めましょう。（6月下旬~7月初め頃から開始）
- 中干しは、田面に軽く亀裂が入る程度実施しましょう。ただし、低温の日が続く場合や生育が遅れているところでは中干しをやめましょう。

### 幼穂形成期の水管理

幼穂形成期（幼穂が1.5mm程度になったとき：平年7月13日）からは、充実した花粉の数を増やすために、気温や天候に関係なく10日間は常に10cm前後の深水管理を行ないましょう。



## 病害虫防除

### 葉いもち病対策

低温・多雨、日照不足が発生の大きな要因となります。このほか窒素過多も発生の要因となります。

#### ●昨年多発した水田（予防対策）

中干し前に、オリブライト粒剤（1kg/10a）を水深3~5cmの水が入った状態で散布し、予防に努めましょう。散布後4~5日間は、湛水状態を保ちましょう。

#### ●葉いもち病の発生が見られる場合

ノンプラス粉剤（4kg/10a）で防除しましょう。

※青天の霹靂はオリブライト粒剤・ノンプラス粉剤が使用できません。

### カメムシ対策

カメムシは、畦畔や空き地に生えているイネ科雑草の穂を吸汁しています。

定期的に草刈りを行い、カメムシの密度低下に努めましょう。エサとなるイネ科雑草が無くなると稲穂を吸汁し始めるので、7月20日頃から穂が固くなる9月上旬までは草刈りは休止して下さい。



葉いもちの病斑



斑点米カメムシ

## \*雑草防除\*

雑草の生育も早まっています。除草剤は使い方に注意して、早めの散布を心がけて下さい。

対象雑草	薬剤名	使用時期	使用量/10a	使用方法
ノビエ	クリンチャーEW ※展着剤を加用	田植後20日~ノビエ6葉まで（収穫30日前）	100ml (1000倍)	水を落とした状態で散布。 雑草の先端から根元までまんべんなく散布する必要があります。
	クリンチャー1 粒剤	田植後7日~ノビエ4葉まで（収穫30日前）	1kg	湛水した状態で散布。
広葉雑草 (ハナトオシ、ホタルイ等)	バサグラン液剤	雑草の発生~増殖初期 (田植後15~55日、 但し収穫50日前まで)	500ml (200倍)	水を落とした状態で散布。 雑草の先端から根元までまんべんなく散布する必要があります。
	バサグラン粒剤	雑草の発生~増殖初期 (田植後15~55日、 但し収穫60日前まで)	3~4kg	水を落とした状態で散布（足跡に水が残っている状態） 雑草が大きくなると効果が劣るので、その場合は液剤を散布して下さい。
広葉雑草とノビエ	クリンチャーバスME液剤	田植後15日~ノビエは5葉まで（収穫50日前）	1000ml (100倍)	水を落とした状態で散布。 雑草の先端から根元までまんべんなく散布する必要があります。 ※青天の霹靂はクリンチャーバスME液剤が使用できません。



オモダカ



シズイ



クログワイ



ホタルイ



コナギ